

はじめに

中央教育審議会の初等中等教育分科会に設けられた特別支援教育特別委員会における審議が開始されてから1年が過ぎ、また、この4月には発達障害者支援法が施行されました。このような中で、「特殊教育」から「特別支援教育」への転換についての関心は、今や特殊教育関係者だけでなく、小学校、中学校はもちろん、保育園、幼稚園、高等学校、大学まで次第に拡がり始めています。この関心を、通常学級において学习上・生活上で苦戦している軽度発達障害のある子どもたちへの教育支援体制に結実させていくために、私たちはどのように考え、どのように取り組むことが必要なのでしょうか。

本書は、そのような問題意識に基づき、企画段階から私ども筑波大学特別支援教育研究センターが全面的にご協力したセミナー「特別支援教育にどう取り組むか」(主催：時事通信)の内容を忠実に収録したものです。本セミナーでは、中心的な話題を軽度発達障害のある子どもたちへの教育的支援に置き、理解啓発あるいは先導的モデル形成に実績のある方々から、極めて実践的な情報を発信していただきました。

本書が、全国さまざまな地域における取り組みの芽出しに、またその後押しに、少しでも寄与できれば幸いです。

2005年7月

筑波大学特別支援教育研究センター長
斎藤佐和

本書は、本年5月7日に東京・銀座の時事通信ホールで開かれた「時事通信 教育トップセミナー 特別支援教育にどう取り組むか」(主催：時事通信出版局・時事通信社事業局、後援：筑波大学特別支援教育研究センター)の全容を採録したものである。

時事通信出版局と筑波大学付属学校教育局は昨年12月、時代のニーズに応じた学校教育支援を目的に、さまざまな受託・共同研究に取り組むべく、産学連携協定を締結した。本セミナーは、その関連事業として企画されたものであり、開催に当たっては同大学特別支援教育研究センターの全面的なご協力をいただいた。

時事通信出版局